

## 助成対象活動報告シート

助成メニュー：トライアル活動助成

団体名：東桜エリアマネジメント協議会

### 1 助成を受けて実施した活動

※ 活動の様子がわかる写真(数枚)を入れ込んで記入してください。

- ・ **2025年10月28日(火)～29日(水)都心部エリアマネジメント団体フォーラムへの参加**
  - ① メインシンポジウム「となりのシバフ」における講演および情報発信
    - ・ 名古屋駅地区街づくり協議会、錦二丁目エリアマネジメント株式会社とともに、トークセッションに登壇。エリマネ団体の広域連携の可能性に関するディスカッションに参加するとともに、参加者に対し社会実験に関して情報発信。
  - ② アフターイベント「となりの若手」におけるプレ活動の実施
    - ・ 錦二丁目エリアマネジメント株式会社、マチゾラシンサカエマチ、名古屋駅地区街づくり協議会とともに、ホストとして参加。
- ・ **日常活動としてアーバンファームの活動を開始**
  - ・ 周辺施設（SLOW ART CENTER NAGOYA）における野菜や花の栽培
  - ・ 地域関係者にて種蒔き、日常管理、収穫イベントを実施
- ・ **2025年11月15日（土）社会実験「HIGASHI SAKURA BLOOMING～まちづくりフェス～」の実施**
  - ① 栄公園におけるプレーパークの実施
  - ② 愛知県芸術劇場と連携したオペラ公演の実施
  - ③ 「農」に関連したトークイベントの実施
- ・ **2026年2月11日(水・祝)～3月1日(日)社会実験「HIGASHI SAKURA BLOOMING～モビリティ&パーク～」の実施**
  - ① 交通手段の多様化を目的とした多様なモビリティの導入
    - ・ カリテコバイク、チャリチャリ、HELLO CYCLING、LUUP の臨時サイクルポートの設置
    - ・ パーソナルモビリティ SCOO の試乗体験イベントの実施
  - ② 什器や情報発信拠点を設置した滞留空間の創出及び空間デザイン **※助成対象活動**
    - ・ 人工芝や机・椅子、ハンモックなどの設置
    - ・ マチゾラシンサカエマチと連携したキッチンカーやテント出店による飲食提供
    - ・ 案内ボードと矢印サインの設置及びそれらを用いたアンケートの実施
- ③ 活動エリアへの回遊促進
  - ・ 謎解きラリー企画の実施
- ・ **東桜小学校コラボ企画「まちの“やさしさ”マッププロジェクト」の実施**
  - ① 2025年12月10日(水)に6年生の課外授業を実施（講義・まち歩き・マップ制作）
  - ② 株式会社 iiba が開発・運営する子育て世帯向けアプリ iiba に生徒の声を反映
  - ③ 2月社会実験に合わせ、地下鉄栄駅に作成したマップの原本を掲示



※ この様式は公開されます。

## 2 活動の成果および目標達成度合い

### ■エリアの回遊性向上

2月社会実験：活動エリア内に多くのポートを有する主要4社の臨時シェアサイクルポートの設置による効果については、ODデータなどの提供を待ち検証予定。また、活動エリア内の回遊を促す謎解きラリー企画には、3月1日(日)現在、想定参加者数が850名ほどとなっている。

### ■公共空間の使われ方検証

11月社会実験（栄公園）：小中学校に隣接しながら子供たちによる日常利用が少ない栄公園において、普段とは違った風景が実現でき、空間デザインだけでなくコンテンツについてもヒントを得られる場となった。

11月社会実験（Blossa）：自由に往来・滞在可能であるという屋外空間の強みを生かした活動となり、公共空間の意義を再考するという面で意義があった。

2月社会実験（希望の広場）：人工芝による滞留空間創出や飲食提供、賑わい創出イベントの実施などを通じて、普段は通過されがちな広場でとどまりくつろぐという新たな使い方を実践できた。

### ■文化・芸術系コンテンツのニーズ検証

11月社会実験（Blossa）：参加者からは、「気軽に文化に触れることができた」という声や今後の文化的活動・エリア形成に期待する声が聞かれ、東桜の有力コンテンツとしての芸文の存在を再確認できた。

上記3つの観点で振り返りを行った結果、当初の目標を概ね達成したと考えられる。

## 3 活動により見えた課題

### ① 公共空間活用における手続きの効率化

各種申請や相談について、名古屋市の担当課が異なり、打合せ回数の増加や手続きの煩雑さが企画を進める上でハードルと感じた。

### ② 継続的な活動の実施に向けたリソースの確保

継続的な活動に向け、自団体だけではヒト・モノ・カネの限界を感じた。

### ③ 恒常的な取り組みにしていくにあたっての交渉

社会実験における臨時設置物について、地域の方に高評価をいただき常設を交渉したが、「常設を許可する仕組みがない」「過去に策定・整理した機能を鑑み必要性がない」との理由で却下となり、恒常化の難しさを感じた。

## 4 今後の活動等の展望

2026年度：アジア競技大会等、周辺イベントからの賑わいの連続性を創出する社会実験の実施（公共空間への滞留空間作りの範囲拡大、文化・芸術系コンテンツの恒常的設置）

2027年度：道路活用範囲を拡大した社会実験の実施、継続的効果検証（久屋大通沿い、錦通沿いにおける滞留空間作りやにぎわい施策実施）

10年後：恒常的な公共空間活用による街の変化の測定、構想の更新

20年後：公共空間のより良い活用を通じた地域価値の向上、構想の達成

※ 「令和7年度 地域まちづくり支援制度 活動助成募集要項 成長支援・実践活動助成」のP.5「概要・趣旨」及びP.14の「メニュー別視点」を踏まえてご記入ください。

※ 各欄のサイズ変更は可能ですが、2ページを超えないように作成してください。

※ 用紙の大きさ日本産業規格 A4 とする。

※ この様式は公開されます。